

第9回

インターネット活用教育実践コンクール

# 入賞実践事例報告



●主 催●

文部科学省

インターネット活用教育実践コンクール実行委員会

●後 援●

総務省、経済産業省、朝日新聞社

●協 力●

(財)学習ソフトウェア情報研究センター、(財)コンピュータ教育開発センター  
(社)日本教育工学振興会、(財)日本視聴覚教育協会、日本視聴覚教具連合会

## 第9回 インターネット活用教育実践コンクール

# 入賞実践事例報告

### 2 ■経過報告

### 3 ■審査概評

### 4 ■内閣総理大臣賞 社会教育部門

「佐賀県民の情報モラル育成のための産官学民連携による地域的教育実践」

### 6 ■文部科学大臣賞 学校教育部門

「市内小中学校での統一したシステムによる学校Webサイトの運用」

### 7 ■文部科学大臣賞 社会教育部門

「神戸発 わが家の防災学習－ジュニアチームが拓く学びのネットワーク－」

### 8 ■総務大臣賞 学校教育部門

「高校生による今日的課題へのプレゼンテーションコンテスト  
（『国際高校生フォーラムin倉吉』）－日韓英の高校連携と知への挑戦－」

### 9 ■経済産業大臣賞 学校教育部門

「映像制作を通したメディアリテラシー・コミュニケーション能力の育成  
－『バーチャル模造紙』を活用して－」

### 10 ■朝日新聞社賞 学校教育部門

「筋ジストロフィー児童生徒の自己効力感を高めるインターネットを活用した  
病弱特別支援学校の実践 －学習・交流・就労－」

### 11 ■優秀賞

### 12 ■特賞

### 13 ■実践奨励賞

### 14 ■表彰式

# 第9回 インターネット活用教育実践コンクール

## 経過報告

文部科学省・インターネット活用教育実践コンクール実行委員会主催、総務省・経済産業省・朝日新聞社後援による第9回インターネット活用教育実践コンクールは、「地域社会や学校などの教育におけるさまざまな活動の中で、インターネットを有効に活用している優れた実践事例を表彰し、全国に広く紹介することにより、教育の情報化の推進を図ること」を目的に開催され、学校教育と社会教育の2部門について、実践事例を平成20年9月1日よりWeb上で募集を開始した。10月21日に締切り、学校教育部門104件、社会教育部門24件の合計128件の応募を得た。第1次書面審査、第2次ビデオ審査を経て、平成21年2月6日審査委員会において各賞を決定した。各賞の内訳は、内閣総理大臣賞1件、文部科学大臣賞2件、総務大臣賞1件、経済産業大臣賞1件、朝日新聞社賞1件、優秀賞2件、特賞2件。また、今後のインターネット活用を奨励する事例として、5件を実践奨励賞とした。

表彰式は、3月13日(金)午前10時30分から、東海大学校友会館（東京都千代田区霞が関3-2-5霞が関ビル33階）において行われた。

本報告では、審査概評と入賞実践レポートの概要、第2次審査対象となったビデオ映像より活動の様子など、そして受賞者からの今後への抱負、表彰式の様子を掲載している。

また、巻末には、実践の記録を納めたDVDビデオを添付している。

## 審査概評

審査委員長  
東京未来大学学長・東京工業大学名誉教授

坂元 昂



第9回インターネット活用教育実践コンクールには、実践事例報告128件が集まった。それらについて、校種・分野ごとに審査委員に分担書面審査をお願いし、上位49件を選出し、第1次審査委員会において、審議の上、学校教育部門8件、社会教育部門2件の計10件を第2次審査対象候補とした。さらに、映像制作会社に、候補先の現地取材をお願いし、具体的な活動状況を15分程度のビデオにまとめてもらった。それらを審査委員が精査し、第2次審査委員会において多角的に検討の上、受賞者並びに受賞実践を決定した。

内閣総理大臣賞の栄誉に輝いたのは、佐賀県のKodomo2.0の「佐賀県民の情報モラル育成のための産官学民連携による地域的教育実践」であった。佐賀全県民の情報モラルを育成するために、県下の産官学民の各セクターが協力して、安全なネットワーク社会を構築した実践である。学校・大学教員、地域産業、ICT専門家、保護者等が異なる立場から協働し、親子共同制作によるポスターコンクール、ドラマ教材の制作、有害コンテンツ疑似サイト体験、ネット時代の親力養成や母子家庭講座、ネットトラブル電話相談等、幅広い多面的な活動を実践し、県民のネット問題の理解、マナー学習を促進した。今日の国策となっている情報モラル教育の一般化のモデルとして、大きな意義のある実践であるとして高く評価された。

文部科学大臣賞学校教育部門は、栃木県の佐野市教育センターの「市内小中学校での統一したシステムによる学校Webサイトの運用」で、市内全38の小中学校を統一したPCとWebサイトを導入することによって、紙ベースでは、なかなか行き渡らない、学校情報を地域や保護者、子どもたち

に広く配信して、全市に学校を開いた実践である。Net CommonsというWebページを簡単に制作できるシステムを用いて、全学校が絶えず情報を更新し、学校生活を地域共有のものとした。その際、校長が最終チェックして、写真記事などで個人情報を守る心配りもしている。地域に生きる学校を育てるのに一般化可能な優れた実践と言える。

社会教育部門では、神戸防災学習連携促進協議会の「神戸発 わが家の防災学習—ジュニアチームが拓く学びのネットワーク—」が受賞した。高齢化していく団地にあって、140人の小中学生を中心とする防災ジュニアチームが、毎月、防災学習をし、成果をインターネットを通して地域に発信する実践である。防災クイズ、マップ作り、耐震構造ものづくり、ロープワーク、基礎講義等、地域の情報についてもっとも詳しい中学生などが体験し、自分の目で見て考え、楽しく学ぶことによって、団地の皆さんともコミュニケーションしながら、お互いの防災意識を高めている。多くの地域に一般化できる実践である。

総務大臣賞の鳥取県立倉吉東高等学校高校生フォーラム実行委員会の実践は、7回にわたる持続的努力が、経済産業大臣賞の愛知県岡崎市立井田小学校は、映像制作における「バーチャル模造紙」の活用のアイデアが、朝日新聞社賞の北海道八雲養護学校は、特別な支援を必要とする子どもたちへのICTによる支援の重要性和広がりへの期待がとくに注目され、賞につながった。

今回は、関係各位のご努力で応募件数も急増し、関心の集まりを感じさせたが、それだけよい実践も多く、優秀賞、特賞にも、優れた事例が多かった。第10回でのさらなる発展を期待している。

# 内閣総理大臣賞

## 社会教育部門

### 「佐賀県民の情報モラル育成のための産官学民連携による 地域的教育実践」

Kodomo2.0（佐賀県）

URL <http://kodomo2.0saga.net/>

## 概 要

Kodomo2.0は、ボランティアや市民活動を行う団体・個人を支援する組織、さが市民活動サポートセンターに活動拠点をおき、佐賀大学関係者や県内情報関連事業者をはじめ、社会教育や学校教育の分野で情報教育に携わってきた人々が、これまでに蓄積した知識や技術力を結集させたチームを組み、佐賀県におけるデジタルデバイドの解消と安全・安心なネット社会の実現を目指して、成人はもちろん、小・中・高校生や高齢者を含めたあらゆる年代を対象とした情報教育や情報モラル学習のサポート・情報化に関する啓発活動を行っている。

## 主な活動（Kodomo2.0事務局長 陣内 誠）

### ①「ネットの安全安心ポスターコンクール事業」

「交通安全ポスターコンクール」のインターネット版と考えるとイメージしやすいと思います。このコンクールの特徴を最も端的に現しているのが「おとなと子どもで共同制作部門」の存在です。各家庭で、お子さんと保護者が「ネットの望ましい使い方等」を話し合いながら、共同でポスターを創っていただきたと考えて、この部門を設置しました。



作品募集チラシ

### ②「PTA・CSO支援組織とのコラボレーションによる家庭教育学級の インターネット配信事業」

佐賀県教育委員会やPTAと協力して、ネットに関わる家庭教育学級を保護者向けに3回にわたりネット配信しました。県内のCSO（市民団体）支援組織に設置したサテライト会場にメンバーを配置して、解説を加えながら講座を進めました。



保護者を集めての講習



親力養成講座チラシ

### ③「子どもとおとなが楽しみながら学習するドラマ教材の開発『Yokooh！劇場』」

難しくなりがちなネットの問題を、親しみやすいキャラクターが演じる劇を通じて学習するための教材を開発しました。幼児からお年寄りまで幅広い年齢層に訴求することができたと自負しています。おっちょこちょいの「Yokooh君」が巻き起こすドタバタ劇の笑いの中から教訓を感じ取っていただけたようです。



Yokooh!劇場

これらの他にも子どもや保護者の危険回避能力育成のための「パソコン版有害コンテンツ疑似体験サイト」「携帯電話版有害コンテンツ疑似体験サイト」を構築したり、佐賀県母子寡婦福祉連合会と協力して母子家庭支援のための「携帯電話やネットの家庭ルール作り講座」を実施したりしています。そして、コープさが生協や佐賀新聞・教職員サークル団体・育友会・生徒指導協議会などさまざまな団体と協力して講座や講演を行いました。また、これまでの講座受講者から寄せられた「県内に気軽に相談できる窓口が欲しい」という要請に答えて、相談専用電話を設置しています。

## ＜今後への抱負＞

子どもたちが置かれている状況を何とかしなければと言う思いだけで、手探りで始めた私共ですので、総理大臣賞という望外の賞をいただいて戸惑っているというのが現在の偽らざる心境です。私共が活動する時のテーマの一つが「つながる・つなげる」ということです。アナログな手法とデジタルな手法を繋げる、情報と人を繋げる、団体と団体を繋げる、親と子を繋げる、人と人が繋がる。この「つながる・つなげる」というテーマは、私共Kodomo2.0が活動の拠点としている「さが市民活動サポートセンター」の皆さんから学んだものです。この1年、さまざまな「もの・人・こと」が繋がるお手伝いをさせていただきましたが、今回の受賞をきっかけに、また新たな「つながり」が生まれようとしています。それが私共の最大の喜びです。

# 文部科学大臣賞

## 学校教育部門

### 「市内小中学校での統一したシステムによる 学校Webサイトの運用」

佐野市教育センター（栃木県）

URL <http://www.city.sano.lg.jp/kyouiku/index.htm>

#### 概 要

佐野市教育センターでは、市内小中学校の学校Webサイトの活性化を目的として、CMS（コンテンツ管理システム）を利用したシステムを平成19年度に構築した。平成19年度の調査研究を経て、平成20年度から正式な運用が各学校ではじまった。現在約3分の2の学校が特色を生かした運用を行っている。

教員の負担を少なく、「学級たより・通信」「クラスの日々の様子」などを、手軽にインターネットを活用して、配信できるようになった。学校からは、職員の連携が深まったなどの声も聞かれ、また、保護者からは、児童の学校での様子も知ることができると好評である。



児童生徒の様子を配信

#### ＜今後への抱負＞

今回の受賞を教育センター職員一同、大変名誉なことと感じております。また、本市教育センターの実践を認めていただいたことに対し感謝申し上げます。本市では、「学校Webサイトの運営が一部の教員に集中しないこと」「教員の異動がサイト更新の停滞の原因にならないこと」を目的に1年の調査研究を経て、システムを構築しました。現在、各学校はこのシステムで積極的に学校情報を発信しています。学校から「職員全員による発信は、保護者に好評であるとともに、職員間の連携の強化にもつながった」との報告を受けました。担当者として大変うれしく感じています。今後、開かれた学校づくりの一環として、さらに活用が進むよう努力していきたいと思ひます。

（佐野市教育センター指導主事 谷 直人）

# 文部科学大臣賞

## 社会教育部門

### 「神戸発 わが家の防災学習 －ジュニアチームが拓く学びのネットワーク－」

神戸防災楽習連携促進協議会（神戸市）

URL <http://toyama.shiminjuku.com/home/koubebousai/mokuji.html>

#### 概 要

阪神・淡路大震災を経験した神戸では、地域防災活動の単位である「防災福祉コミュニティ」の活動が盛んである。そのひとつの「ひよどり台防災福祉コミュニティ（神戸市北区ひよどり台団地）」では、住民が中心となって、地域防災活動の月例会のカリキュラムをコンテンツ化してインターネットに掲載している。中には、小中学生から成る『防災ジュニアチーム』の月例防災学習会活動を教材化したサイト「神戸発 わが家の防災学習」などもあり、このようなインターネットを通じた防災に関する学びの場を立ち上げることにより、訓練に参加できなかった住民や反復学習したい参加者が、ホームページを見て学習できると好評である。



市民が防災についての知識を子どもたちに伝授

#### ＜今後への抱負＞

栄えある賞をいただき、神戸市北区ひよどり台防災福祉コミュニティのジュニアチームのメンバーは、非常に喜んでおります。子どもたちは、「先輩や自分たちが取組んできた防災活動が、全国各地域の防災活動の参考になる」ことや、「自分たちが手本となって教えることが、同時に自分たちの学びになる」ことを、新たに感じたようです。これまで地域防災活動に参加しなかった人も、ホームページを見て活動に興味を持ち参加するなど、学びのネットワークは拓かれつつあります。近い将来、地域の防災や環境を守る担い手として活躍が期待される彼らと共に、地域で学ぶことの楽しさや、人々との交流の大切さを発信し続けて行きたいと思ひます。

（神戸防災楽習連携促進協議会事務局 松崎 太亮）

## 総務大臣賞

学校教育部門

「高校生による今日的課題へのプレゼンテーションコンテスト  
（『国際高校生フォーラムin倉吉』）  
－日韓英の高校連携と知への挑戦－」

鳥取県立倉吉東高等学校高校生フォーラム実行委員会

URL <http://sotoforum.blog36.fc2.com/>

### 概 要

「国際高校生フォーラム」は、倉吉東高等学校がまとめ役となって、高校生自らが現代社会の諸問題に真正面から取り組み、具体的な解決に向けてチームで議論を重ね、討論する場である。

「フォーラム」では、全国から、そして韓国、英国から参加する高等学校の代表により、現代社会の諸課題から抽出されたテーマについて、インターネット等を利用して調査、研究、思索したことをもとに、プレゼンテーションしながら、討論、講評・表彰が行われる。これまでのテーマは「環境問題」「21世紀の教育」「世界秩序」「国際貢献」等があり、これらの諸問題について、議論してきた。その内容の一部は、動画共有サイトを通じて、オンデマンドで観ることができるようになっている。



プレゼンテーションのための情報収集・話し合い

### ＜今後への抱負＞

本校が8年間にわたって努力してきた取り組みを評価していただき、たいへんうれしく思います。これも取り組みの意義を理解して主体的に活動してくれた生徒、さまざまなかたちでサポートいただいた育友会保護者の方々、素晴らしい発表生徒を派遣して下さった各参加校、中心的な後援をいただいている県教育委員会のお蔭であり、感謝いたします。これからも、高校生が世界の重要課題に目を向け自らの頭で思索したことをもとにプレゼンテーションを作り上げ、そして討論する教育活動を継続していきたいと思います、そしてその取り組みについてインターネットの特性を活かしながら、地方にあっても発信し続けていけたらと願っています。

（鳥取県立倉吉東高等学校長 名越 和範）

## 経済産業大臣賞

学校教育部門

「映像制作を通したメディアリテラシー・コミュニケーション能力の育成－『バーチャル模造紙』を活用して－」

愛知県岡崎市立井田小学校

URL <http://www.oklab.ed.jp/ida/>

### 概 要

子どもが自立した一個人として成長していくためには、コミュニケーション能力の育成が不可欠である。本実践では、子どものコミュニケーション能力を向上させるため、メディアリテラシー、中でも映像制作に特化した視点から切り込んだ。

子ども自身に映像制作の体験をさせ、「バーチャル模造紙」を活用した批評活動をする事により、メディアリテラシーを高めながら子どものコミュニケーション能力を向上させることができた。



パソコン画面上で批評活動

### ＜今後への抱負＞

今回は経済産業大臣賞という素晴らしい賞をいただき、ありがとうございました。私個人だけでなく、学級の子どもたちも、自分たちの取り組みが認めていただけたということで大変喜んでおります。今回受賞したことで、これまで自分が取り組んできた、バーチャル模造紙の特性を生かしたコミュニケーション能力育成に関する実践の方向性に確信を持つことができました。

今後はさらにバーチャル模造紙を活用して、コミュニケーション能力を高める実践を研究するとともに、制作した作品を子どもたち自身が、さまざまな教科で教材として活用していけるような実践についても研究を深めていきたいと思っています。

（愛知県岡崎市立井田小学校教諭 内田 雅之）

## 朝日新聞社賞

### 学校教育部門

「筋ジストロフィー児童生徒の自己効力感を高めるインターネットを活用した病弱特別支援学校の実践－学習・交流・就労－」

北海道八雲養護学校

URL <http://www.yakumoyougo.hokkaido-c.ed.jp/>

#### 概要

本校の半数を占める筋ジストロフィーの病気を持つ児童生徒にとって、インターネットはライフラインともいえる重要なものとなっている。本実践では、運動機能障害のために、今までできていたことができなくなるなど、いわゆる喪失体験を繰り返す児童生徒にとって、インターネットの有効な利活用を促す環境づくりをすることにより自己効力感の向上・自尊感情の高まりにつなげ、よりよい人生を創造できると考えたものである。

主な活用として、校内無線LAN化による学習環境構築やWEBページの充実、他校との交流日記、併設病院との就労プロジェクトの運用、他大学との連携によるe-ラーニング活用などがある。



大学等と連携し学ぶ

#### ＜今後への抱負＞

学校のPRを兼ねて応募しました。このような賞をいただき大変光栄です。病弱の児童生徒を教育する特別支援学校がどのようなことをしているのか、また本校児童生徒の元気で活動的な様子を多くの人に知っていただくよい機会となりました。さらに、今回児童生徒の「自己効力感」ということで応募しましたが、今までの本校の教育実践が評価されたということで、教職員の自己効力感も増し、自信がついたのではないかと思います。今後も併設の病院と「協働」しながら、病弱の特別支援学校をはじめ、全国のいろいろな学校に本校の教育実践を知っていただけるよう、インターネットを活用しながら発信していこうと思っています。どうもありがとうございました。

(北海道八雲養護学校教諭 小森 信幸)

## 優秀賞

### 学校教育部門

「児童がデジタル作品を交流できるWebページの開発と実践」

三重県津市立栗真小学校

URL <http://www.res-edu.ed.jp/kurima/>

#### 概要

小学校現場にもコンピュータが導入され、児童が創作する作品にも従来の作文や工作に加えて画像や映像、音声の加わったマルチメディアの作品が登場してきた。そこで、小学校の児童が能動的に作品を交流できるWebページを作成し、実践することで児童が楽しみながら創作活動を行える授業の実現を目指した。実践の結果、児童は作品に対して観点を持って相互評価することができた。また、その実践によって主体性、達成感も高まった。



この一画面で児童がデジタル作品を掲載し交流できる

### 学校教育部門

「携帯型デジタルオーディオプレーヤーを使った英語指導とオンライン教材配信」

京都市立紫野高等学校

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/murasaki/>

#### 概要

京都市立紫野高校では、普通科英文系2クラスで携帯型デジタルオーディオプレーヤーを使った英語学習指導を行っている。日常の英語授業とリンクした音声教材を携帯型デジタルオーディオプレーヤーに取り込み、授業や課題学習に積極的に活用することで生徒の英語力の伸長を目指すとともに、本校ホームページ内に設置したオンライン教材配信用コーナーを通じた教材のインターネット配信指導を行うことで生徒のコンピュータ・インターネットリテラシーの育成を図っている。



オンライン教材配信を利用した授業外学習

## 特 賞

学校教育部門

「地域ミュージアムの情報システムを活用した学習の拡張  
－芽室町立上美生中学校・とかち田園空間博物館・多摩美術大学の連携」

ktmプロジェクト <北海道河西郡芽室町立上美生中学校・多摩美術大学（東京都）>  
URL <http://www.tokachi-a-muse.jp/>

### 概 要

上美＋多摩美＋学び（kamibi × tamabi = manabiの略称）の頭文字をとってktmプロジェクトと名付けたこの連携プロジェクトは、2006年度の学習テーマ「国際理解」に始まり、2007年度「福祉」そして、本年度実施した「環境教育」へと継続されている。

ワークショップの内容は、総じて、生徒達が自身や自らの生活圏に着目し、そこにある事実を丹念に調べ記録することであり、その記録を集積すること。そして、「とかち田園空間博物館」の情報システムを利用し、集積した記録を構成した表現作品（文章や視覚表現）を制作することである。



紙面情報をパソコン入力し、とかち田園博物館のコンテンツを制作

学校教育部門

「多摩川源流探し－歩数計着用とICTシステムの活用で  
生活リズムを整え、学力も向上させよう－」

生涯にわたる生活リズム形成研究会（東京都）・東京都大田区立矢口小学校  
URL <http://academic4.plala.or.jp/ygte/>

### 概 要

全校児童が「歩数計」を着用し、運動量を高めながら生活リズム形成を目指す「早寝・早起き・朝ごはん」プロジェクトに取り組む中で、特に6年生は日々の歩数の記録を「多摩川源流探し」と名付けたシステムに入力した。5月12日～12月25日まで途中の脱落者が誰も出ず、118人が楽しみながら自己管理する力を培うことができたことは大きな成果といえる。平均は6375歩、10000歩以上に達したのは4人であった。ICTシステムの導入が学校教育の可能性を更に大きく前進させてくれた。



廊下に歩数入力のパソコンと右に歩数計を常設

## 実践奨励賞

学校教育部門

「地域社会を教材とした体験的な知的財産教育の実践」

北海道紋別北高等学校  
<http://www.monbetsukita.hokkaido-c.ed.jp/wh/wh.html/>

学校教育部門

「心と心をつなげるヒューマンコミュニケーション  
－IT活用からICT (Information and Communication Technology) 活用社会へ－」

茨城県立鉾田第二高等学校・群馬県立尾瀬高等学校・三重県立みえ夢学園高等学校  
茨城県立鉾田第二高等学校：<http://www.hokota2-h.ed.jp/>  
群馬県立尾瀬高等学校：<http://www.oze-hs.gsn.ed.jp/>  
三重県立みえ夢学園高等学校：<http://www.mie-c.ed.jp/hmiedyu/>

学校教育部門

「不登校・引きこもり傾向の強い生徒に対するeラーニングを活用した  
教科指導の実践」

日本放送協会学園高等学校（東京都）  
<http://www.n-gaku.jp/>

学校教育部門

「高専－豊橋技科大間における遠隔制御体験実習プログラム」

高専連携遠隔制御プロジェクト  
[http://www.syscon.pse.tut.ac.jp/nct\\_partnership/index.htm](http://www.syscon.pse.tut.ac.jp/nct_partnership/index.htm)

社会教育部門

「携帯端末を利用した水族館における新しい学習環境の提案」

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 有澤研究室 クラゲラボ（神奈川県）  
<http://quragelab.jp/>

# 表彰式

平成21年3月13日(金)  
東京霞が関・東海大学校友会館

表彰式には、受賞者、関係者約70名が出席した。山内俊夫文部科学副大臣より内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞が、各賞については各省庁の代表及び実行委員長より賞状・トロフィー・副賞が授与された。



主催者挨拶される山内俊夫文部科学副大臣



表彰式会場



受賞者の方々



内閣総理大臣賞を受賞するKodomo2.0の代表



文部科学大臣賞を受賞する佐野市教育センターの代表



文部科学大臣賞を受賞する神戸防災楽習連携促進協議会の代表



総務大臣賞を受賞する鳥取県立倉吉東高等学校高校生フォーラム実行委員会の代表



経済産業大臣賞を受賞する愛知県岡崎市立井田小学校の代表



朝日新聞社賞を受賞する北海道八雲養護学校の代表



優秀賞を受賞する三重県津市立栗真小学校の代表



特賞を受賞するktmプロジェクトの代表



特賞を受賞する生涯にわたる生活リズム形成研究会(東京都)・東京都大田区立矢口小学校の代表

第9回  
インターネット活用教育実践コンクール  
入賞実践事例集

インターネット活用教育実践コンクール実行委員会

DVD  
VIDEO NTSC  
日本市場向  
複製不能/片面1層/approx. 115min

第 9 回インターネット活用教育実践コンクール 入賞実践事例報告

平成 21 年 3 月 16 日 印刷  
平成 21 年 3 月 16 日 発行

編集・発行 文部科学省  
インターネット活用教育実践コンクール実行委員会  
印 刷 東京書籍印刷株式会社  
東京都北区堀船 1-23-31  
発 行 所 財団法人 日本視聴覚教育協会  
東京都港区虎ノ門 1-19-5 虎ノ門 1 丁目森ビル B1  
電話 03-3591-2186  
FAX 03-3597-0564  
URL <http://www.netcon.gr.jp>

- DVDビデオは映像と音声を高密度に記録したディスクです。
- DVDビデオ対応のプレーヤーで再生してください。
- 再生機の機種によっては、正常に動作しない場合があります。
- 各再生機能操作については、ご使用になるプレーヤー及びテレビの取扱説明書を必ずご参照ください。
- このDVDビデオを権利者に無断で、複製、改変、公衆送信（放送、有線放送、インターネットなど）、頒布（販売など）、翻訳、翻案などに使用することはできません。
- このDVDビデオは非営利の学校教育又は社会教育を目的とする場合に限り、無償で公衆に貸与するとともに、貸与を受けた者が、公に上映することができます。
- 本DVDビデオの使用に起因するユーザーのあらゆる損害に対し、文部科学省、インターネット活用教育実践コンクール実行委員会は一切の責任を負いません。

第9回

# インターネット活用教育実践コンクール Webサイト

第9回  
**インターネット活用教育  
実践コンクール**

多数のご応募をいただき、ありがとうございました。

> 審査概評

主催／文部科学省、インターネット活用教育実践コンクール実行委員会  
後援／総務省、経済産業省、朝日新聞社

過去の入賞事例

- > 第1回
- > 第2回
- > 第3回
- > 第4回
- > 第5回
- > 第6回
- > 第7回
- > 第8回

報告書・映像資料  
一覧にみる前に

更新情報  
各賞が決定しまし  
た。第1次審査通過  
作品事例の決定し  
た。

インターネット活用  
実践コンクール  
のリンクについて

インターネット活用教育実践  
コンクールの公式サイトでは、  
過去の実践事例の報告書や映  
像資料を見ることができます。

詳しくは

ネットコン

検索

“ネットコン”で  
検索!



## 第9回 インターネット活用教育実践 コンクール各賞の決定

文部科学省・インターネット活用教育実践コンクール実行委員会主催、総務省・経済産業省・朝日新聞社後援、財団法人学習ソフトウェア情報研究センター・財団法人コンピュータ教育開発センター・社団法人日本教育工学振興会・財団法人日本視聴覚教育協会・日本視聴覚教具連合会協力による第9回インターネット活用教育実践コンクールは、学校教育部門104件、社会教育部門24件の合計128件の応募を得、第1次書面審査、第2次ビデオ審査を経て、以下の通り、内閣総理大臣賞1件、文部科学大臣賞2件、総務大臣賞1件、経済産業大臣賞1件、朝日新聞社賞1件、優秀賞2件、特賞2件を決定いたしました。また、今後のインターネット活用教育実践を奨励する事例として、

・ネットは非営利の手段として活用することを目的とし、かつ無償の場合に限り、配布ができます。  
・映像資料は非営利の学校教育又は社会教育を目的とし、かつ無償の場合に限り、公に上映することができます。

### 1 内閣総理大臣賞

- 社会教育部門  
「佐賀県民の情報モラル育成のための産官学民連携による地域的教育実践」  
Kodomo2.0（佐賀県）



### 2 文部科学大臣賞

- 学校教育部門  
市内小中学校での統一「タ」システムによる学校Webサ

## 報告書



## 映像資料



<http://www.netcon.jp/>